



104号車 山口 辰也 CBR1000RR SP2 TOHO Racing



### 2017MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 TWIN RING MOTEGI SUPERBIKE RACE

#### 【JSB1000】第4戦レポート

レースウィークに入って梅雨入りが発表となり天候が心配されましたが、本選は気持ちいい絶好の観戦日和の中スタート！

・新たな予選方式行われた予選の結果は？！

今回から新たな予選方式が採用された全日本第4戦もてぎJSB1000クラスの予選。35分の計時アタック形式で行なわれ、Q1で上位10ポジションに入選した選手だけがQ2への参戦権利を与えられます。

・ポールポジションは2期連続中須賀選手の手に！

予選では結局、中須賀選手以外に1分48秒台をマークする者はなく、そのまま中須賀選手がトップのままQ1が終了。野左根航汰選手（ブリヂストン）と高橋巧選手（ブリヂストン）とともにQ2を飛ばして最終予選のQ3へ進出しました。

Q2では津田拓也選手（ブリヂストン）・渡辺一馬選手（ブリヂストン）・高橋裕紀選手（PI）・藤田拓哉選手（ブリヂストン）・山口辰也選手（ブリヂストン）・濱原颯道選手（ブリヂストン）、清成龍一選手（PI）の7人が残された三つの席を争う展開に！

ヤマハファクトリー同士の争いとなった予選最終戦のQ3は結局中須賀が制してポールポジションを獲得しました。



中須賀選手を追う野佐根選手



5号車 野左根航汰



私たちが応援する山口辰也選手（TOHO-Racing）は公式予選を9位で終了、本選で十分に表彰台を狙えるポジションです。

メーカーが全面的にバックアップし、最上性能のマシンで参戦するファクトリーライダーが表彰台を独占することが多い中、数多くの輝かしい実績を残してきたプライベートライダーの雄山口選手の存在は大変貴重と言えるでしょう。いよいよ始まった決勝レース！ホールショットを奪ったのは中須賀選手。

オープニングラップから後続を突き放そうと飛ばす中須賀の背後に迫ったのは清成選手。以下、野左根・津田・高橋巧・高橋裕紀と続き、1週目が終了しました。

3周目に入り、いよいよ中須賀選手が清成選手を突き放して独走体勢に突入！野左根選手は清成選手との熾烈な2位争いを制して中須賀を追い、ヤマハファクトリーがワンツーで走行を開始します。同様に清成を捕えた高橋巧が単独3番手で周回を開始。



優勝	5号車	野左根 航汰	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5
2位	634号車	高橋 巧	CBR1000RR SP2	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda
3位	12号車	津田 拓也	GSX-R1000R	ヨシムラスズキMOTUL



中須賀・野左根・高橋巧のトップ3台はそれぞれ後続との距離をしっかりと保ちながら慎重に周回を重ねていきます。

・結果は…

いよいよレース終了が近づいた最終ラップでアクシデントに見舞われ、絶対王者の中須賀選手がまさかの転倒！

高橋巧選手が2位、津田選手は3位でフィニッシュ。中須賀選手はすぐにマシンを起こしてなんとかレースへ復帰！それでも9位でゴールしました。周回遅れの機体が手にあたりブレーキが作動してしまったのはあまりにも不運…。

野佐根選手にとっては悲願の全日本JSBクラス初優勝となりました！

他にも新人の濱原颯道選手が注目を集めるなど、1000クラスの今後の展開からも目が離せませんね。

2017年は早くも折り返し地点を迎えます。今回のレースで山口選手は5位入賞、プライベートでは堂々の1位、十分に表彰台を狙えるポジション。今後の山口選手の活躍に期待をこめて全日本ロードレースの動向に注目していきたいところです。